

平成 26 年 月 日

施設長 △△ △子様

ご協力のお願い

ご容赦

拝啓

秋冷の候、皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。私は、聖路加国際大学博士課程に在籍し、軽度から中等度の認知症高齢者の方に人生史をお聴きするライフレビューの効果を研究しております。このたび、「特別養護老人ホームに入所する認知症高齢者へのライフレビューの効果の検証：ランダム化比較試験と混合研究法」を実施するにあたり、是非とも貴施設に研究へのご協力をお願いしたいと存じます。

高齢者のケアにあたる者は、高齢者の方々がご自分の若い頃や子どもの頃の話を生き生きと語られ、話すことで落ち着かれることを経験しています。このことは、長期療養される認知症高齢者の日常生活の安定や個別ケアにも役立つと考えられます。そこで、ご自身の生活史を幼少期から順に尋ね、ご家族や人とのつながり、生き方を振り返るセッションをお一人に 4 回行います。この結果は日々のケアに役立てることが期待できます。

ご多用の中、誠に恐縮でございますが、ご協力いただく内容、研究の手順、参加協力の依頼書、観察項目を添えましたのでご覧いただき、本研究の趣旨につきまして、ご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本研究は認知症の高齢者の方々を対象としており、倫理的配慮には十分に留意します。研究対象候補者への説明内容には、ご本人と、ご家族または後見人の方の自由意思による研究参加の保証、途中辞退の権利、研究参加の有無に関わらず不利益を受けないことを口頭および文書で説明いたします。対象者から得られた情報は研究目的以外には使用せず、終了後には適切に破棄いたします。また、研究成果は学会や専門雑誌に公表する予定ですが、施設名や個人名が出ることはありません。

本研究は聖路加国際大学研究審理審査委員会の承認（承認番号 14-038）を得て行います。内容につきましてご質問がありましたら、いつでも下記にお問い合わせ下さい。

敬具

研究者：山本由子^{やまもと ゆうこ}

所属機関：聖路加国際大学大学院 博士後期課程 3 年

所属機関住所：〒104-0045 東京都中央区築地 3-8-5

e-mail：12DN011w6H-ts@slcn.ac.jp

電話：080-1099-8109

指導教員：亀井智子（聖路加国際大学 老年看護学 教授）

平成 26 年 月 日

事務長 様

研究へのご協力のお願い

拝啓

仲秋の候、皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。私は、聖路加国際大学博士課程に在籍し、認知症高齢者の方に人生史をお聴きするライフレビューの効果を研究しております。このたび、「特別養護老人ホームに入所する認知症高齢者へのライフレビューの効果の検証：ランダム化比較試験と混合研究法」を実施するにあたり、是非とも貴施設に研究へのご協力をお願いしたいと存じます。

高齢者のケアにあたる者は、高齢者の方々がご自分の若い頃や子どもの頃の話を生き生きと語られ、話すことで落ち着かれることを経験しています。このことは、長期療養される認知症高齢者の日常生活の安定や個別ケアにも役立つと考えられます。そこで、ご自身の生活史を幼少期から順に尋ね、ご家族や人とのつながり、生き方を振り返るセッションをお一人に 4 回行います。そして、この結果は日々のケアに役立ててすることができます。

ご多用の中、誠に恐縮でございますが、ご協力いただく内容、研究の手順、参加協力の依頼書、観察項目を添えましたのでご覧いただき、本研究の趣旨につきまして、ご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本研究は認知症の高齢者の方々を対象としており、倫理的配慮には十分に留意します。研究対象候補者への説明内容には、ご本人と、ご家族または後見人の方の自由意思による研究参加の保証、途中辞退の権利、研究参加の有無に関わらず不利益を受けないことを口頭および文書で説明いたします。対象者から得られた情報は研究目的以外には使用せず、終了後には適切に破棄いたします。また、研究成果は学会や専門雑誌に公表する予定ですが、施設名や個人名が出ることはありません。

本研究は聖路加国際大学研究審理審査委員会の承認（承認番号 14-038）を得て行います。内容につきましてご質問がありましたら、いつでも下記にお問い合わせ下さい。

敬具

研究者：山本由子^{やまもと ゆうこ}

所属機関：聖路加国際大学大学院 博士後期課程 3 年

所属機関住所：〒104-0045 東京都中央区築地 3-8-5

e-mail：12DN011w6H-ts@slcn.ac.jp

電話：080-1099-8109

指導教員：亀井智子（聖路加国際大学 老年看護学 教授）

【ご協力をお願いする内容】

➤ 施設責任者の方へ

- 1) 下記の条件より、対象となる候補者を 8 名程度ご紹介ください。研究者が研究の説明と同意を取り、認知機能評価でブロック割り付けし介入群、対照群に振り分けます。対照群の方にも、ご希望を聞いて研究の終了後に、介入と同じ内容を提供いたします。
- 2) 対象者の把握のために、記録の閲覧のご許可をお願いします。
- 3) 開始前 3 日間を、研究者がフロアで参加観察をすることのご許可をお願いします。
- 4) セッションでは、過去の辛さなどが語られることによる精神的な変化も考えられます。その際の対応や相談方法について、また不測の事態の際の防災上の取り決めについて、あらかじめ打ち合わせをさせてください。また、セッションの場所として居室など、プライバシーが保てる場所をご相談させてください。

➤ 担当スタッフの方へ

- 1) セッションを行うに当たり、対象者の該当日のご予定や様子を担当の方にお尋ねします。
- 2) セッション前後の様子を知るため記録を拝見し、不明な点をお聞きすることがあります。
- 3) セッションの前と後で、観察される項目の評価のために 5 分程度と、4 項目の質問紙調査に 5 分程度のお時間とお答えにご協力をお願いします。

【調査期間】 期間は 2014 年 10 月下旬から 2014 年 11 月中の約 3 週間を予定しています。

【調査手順】

1. 対象者の選定

ご協力をお願いしたい対象者は下記条件を満たす方々を考えております。

- ① 認知症が軽度から中等度である(臨床症状、または CDR ; 1-2、FAST;4-5、HDS-R;11 点以上、MMSE;14 点以上)。
- ② 失語症がない。
- ③ 昔の写真の提供を家族から得られる、または生育史の情報が得られる。
- ④ 重度の基礎疾患などの合併症、精神疾患がない。

2. 研究協力の依頼

貴施設から紹介を受けて、研究者が対象候補者ご本人と代諾者（家族、後見人）様に直接研究の趣旨を文書と口頭で説明します。同意が得られた場合、同意書へ署名をいただき、説明書、謝品（タオル）をお渡しします。

3. セッションの実施と進め方

- ・研究者が対象者候補の本人、代諾者へ口頭と文書にて説明し、承諾を得て行います。
- ・研究者と、必要時は研究補助者の 2 名が、週 2 回 30 分で計 4 回、対象者を訪問します。
- ・セッション開始前と終了後は当日のご担当スタッフ様にご挨拶いたします。
- ・ご担当スタッフの方へのセッション前後のお尋ねや質問紙調査に関しては、業務のご負担にならない範囲で行うようにいたします。
- ・セッションに作製する、テーマ毎の写真のコピーや資料は、対象はご本人の言葉を書き加えてまとめ、メモリーブックとして終了後にご本人に謹呈いたします。

ご協力をお願い

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。私は、聖路加国際大学博士課程に在籍し、認知症高齢者の方と一緒に人生史をふりかえるライフレビューの効果について研究しております。この度、「特別養護老人ホームに入所する認知症高齢者へのライフレビューの効果の検証：ランダム化比較試験と混合研究法を用いて」を行うにあたり、下記の項目をお読みいただき、ご協力をお願いいたします。

1. 研究の目的・意義

高齢になると、子どもの頃の話や得意だったことを思い出して生き生きと語り、話すことで落ち着かれることがあります。そこで、生まれや育った場所、家族や友人などの生活史を順番に尋ね、人とのつながり、生き方を思い出して語ってもらうセッションを行い、効果を検討することが本研究の目的です。このことにより、長期療養される認知症高齢者の日常生活の安定や個別ケアにも役立つと考えられます。

2. 研究方法・期間

効果を明らかにするために、対象者は介入群と対照群とに分かれます。対照群となった方には、研究終了後に介入と同様のライフレビューを提供させていただきます。面談はご本人の居室か施設内の個室に研究者と補助者の2名が訪問し、週2回30分程度のセッションを計4回行います。毎回テーマを決め、その頃の写真があればお持ちいただき、写真などを見ながら自由に語っていただきます。内容は許可をいただいて録音します。セッション中は話される際の表情や様子も観察します。ご本人には毎回感想を聞き、開始時と4回目の終了後に短い質問をいたします。

なお、期間は平成26年 月 から 月 を予定しています。

お願いする内容：ご本人の古い写真・アルバム等がありましたらお貸し願います。それらはセッションに用い、セッション終了後に全て返却いたします。

3. 研究への参加・協力への自由意思

この研究に参加または協力はご自身が自由にお決めになれます。途中であってもお断りできます。お断りになっても、不利益が生じることは一切ありません。

4. 研究への参加・協力の拒否

この研究に参加・協力を同意した場合であっても、いつでも途中でとり止めることができます。そのことによる不利益を被ることは一切ありません。研究への参加・協力をとり止める場合には、研究協力撤回書を研究者へご提出ください。

5. プライバシーの保護

この研究に参加・協力いただく場合、研究協力者のプライバシーは固く守ります。

また、研究のデータおよび結果は、研究の目的以外に用いることはありません。研究協力者の個人情報は調査結果がまとまった時点で全て断裁の上破棄いたします。

6. 個人情報の保護

この研究では、研究協力者の方々の個人的な人生史を聞き取っていくため、これらの個人情報のファイルやICレコーダーの保管場所は、研究室内の施錠できる保管庫でおこない、守秘義務を遵守します。その際、個人の情報が漏れることのないようデータは符号化し、終了後は断裁の方法をとります。また、作製したメモリーブックは対象者様に謹呈し、および作製に使用した写真等は全て返却いたします。

7. 研究に参加・協力することにより期待される利益

この研究に参加・協力することによって、特に昔の記憶を思い出すことができます。また、ご本人の人生史をたどるメモリーブック（思い出帳）が出来上がります。これはいつでもそばにおいて、写真にある頃を思い出し、親しい方を思い出すことにつながると考えられます。この研究で、ライフレビューによる高齢者の方への良い心理的・社会的変化が実証されれば、認知症高齢者とそのご家族へ貢献することができます。

8. 研究に協力することにより起こりえる危険ならびに不快な状態とその対処方法

この研究に参加・協力することにより起こりえる身体的な危険性はありませんが、ご本人が語られるなかで精神的に辛い思いを体験する場合があります。強い興奮や疲労がみられる場合は研究を中止します。また、うつ状態等が長期化する場合は施設長様と相談し、嘱託医の診察につなげ、経過を判断して行きます。

9. 研究結果と公表方法

研究結果は論文などにまとめ、学会誌に公表しますが、お名前や施設名がわかることはありません。プライバシーは固く守ります。

10. 研究期間中・終了後の対応

この研究の期間中および終了後でも、なにかご質問がございましたら下記の連絡先へお問い合わせください。ご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【研究者の連絡先】

氏名：山本由子

所属：聖路加国際大学大学院 博士課程 3年

住所：〒104-0045 中央区築地 3-8-5

電話：080-1099-8109

アドレス：12DN011w6H-ts@slcn.ac.jp

指導教員：亀井智子（聖路加国際大学大学院 教授）

ご協力をお願い

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。私は、聖路加国際大学博士課程に在籍し、認知症高齢者の方と一緒に昔をふりかえるライフレビューの効果について研究しております。この度、「特別養護老人ホームに入所する認知症高齢者へのライフレビューの効果の検証：ランダム化比較試験と混合研究法を用いて」を行うにあたり、ご協力をお願いいたします。下記の項目をお読みいただき、研究協力に同意される場合は、同意書にご署名をお願いします。

1. 研究の目的・意義

お年寄りでは、子どもの頃の話や得意だったことを思い出して生き生きと語り、話すことで落ち着かれることがあります。そこで、生まれや育った場所、家族や友人などの生活史を順番に尋ね、人とのつながり、生き方を思い出して語ってもらうセッションを行い、効果を検討することが本研究の目的です。このことにより、長期療養される認知症高齢者の日常生活の安定や個別ケアにも役立つと考えられます。

2. 研究方法・期間

効果を明らかにするために、対象者は介入群と対照群とに分かれます。対照群となった方には、ご希望をお聞きして、研究終了後に介入と同様のライフレビューを提供いたします。面談はご本人の居室か施設内の個室に研究者と補助者の2名が訪問し、週2回30分程度のセッションを計4回行います。毎回テーマを決め、その頃の写真があればお持ちいただき、思い出されたことを自由に語っていただきます。内容は許可をいただいて録音します。写真のコピーとお話の一部を毎回用紙にまとめ、終了後に本人のそばに置きます。ご本人には、開始時と4回目が終了後に短い質問をいたします。

なお、期間は平成26年 月 から 月 を予定しています。

お願いする内容：ご本人の古い写真・アルバム等がありましたらご持参をお願いします。それらはセッションに用い、終了後に全て返却いたします。

3. 研究への参加・協力への自由意思

この研究に参加または協力はご自身が自由にお決めになれます。途中であってもお断りできます。お断りになっても、不利益が生じることは一切ありません。

4. 研究への参加・協力の拒否

この研究に参加・協力を同意した場合であっても、いつでも途中でとり止めることができます。そのことによる不利益は一切ありません。研究への参加・協力をとり止める場合には、研究協力撤回書を研究者へFAXまたは郵送でご提出ください。

5. プライバシーの保護

この研究に参加・協力いただく場合、研究協力者のプライバシーは固く守ります。また、研究のデータおよび結果は、研究の目的以外に用いることはありません。研究協力者の個人情報は調査結果がまとまったあと、全て破棄いたします。

6. 個人情報の保護

この研究では、研究協力者の方々の個人的な人生史を聞き取っていくため、これらの個人情報のファイルやICレコーダーの保管場所は、研究室内の施錠できる保管庫でおこない、守秘義務を遵守します。その際、個人の情報が漏れることのないようデータは誰でも見れないように取扱い、終了後は破棄します。また、作製したメモリーブックは対象者様に謹呈し、および作製に使用した写真等は全て返却いたします。

7. 研究に参加・協力することにより期待される利益

この研究に参加・協力することによって、特に昔の記憶を思い出すことができます。また、ご本人の人生史をたどるメモリーブック（思い出帳）が出来上がります。これはいつでもそばにおいて、写真にある頃を思い出し、親しい方を思い出すことにつながると考えられます。この研究で、ライフレビューによる高齢者の方への良い心理的・社会的変化が実証されれば、認知症高齢者とそのご家族へ貢献することができます。

8. 研究に協力することにより起こりえる危険ならびに不快な状態とその対処方法

この研究に参加・協力することにより起こりえる身体的な危険性はありませんが、ご本人が語られるなかで精神的に辛い思いを体験する場合があります。強い興奮や疲労がみられる場合は研究を中止します。また、うつ状態等が長期化する場合は施設責任者と相談し、嘱託医の診察につなげ、経過を判断して行きます。

9. 研究結果と公表方法

研究結果は論文などにまとめ、学会誌に公表しますが、お名前や施設名がわかることはありません。プライバシーは固く守ります。

10. 研究期間中・終了後の対応

この研究の期間中および終了後でも、なにかご質問がございましたら下記の連絡先へお問い合わせください。ご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【研究者の連絡先】

氏名：山本由子

所属：聖路加国際大学大学院 博士課程 3年

住所：〒104-0045 中央区築地 3-8-5

電話：080-1099-8109

アドレス：12DN011w6H-ts@slcn.ac.jp

指導教員：亀井智子（聖路加国際大学大学院 教授）

ご協力をお願い

誰でも子どものころや、昔のでき事を思い出して、話すことですっきりすることがあります。私はその研究をしています。

そこで、あなたの生まれ育った故郷や、ご家族の話などを一緒に振り返りたいと思います。ご協力をお願いします。

お願いすること

写真などを見て、思い出されたことを自由にお話してください。その様子を見させてください。最初と最後に質問を読みますのでお答えください。写真と一緒に、お話された一部をあなただけの思い出帳（メモリーブック）としてまとめ、差し上げます。

ご許可をいただいてから、週 2 回 30 分程度の時間で合計 4 回、お部屋かお近くにお話を聴きにまいります。そのために、あなたが準備をするようなことはなにもありません。

協力するかどうかはあなたが自由に決めることができます。また、いつでも断ることができます。それでなにかが悪くなるようなことは決してありません。

内容はご許可をいただいたことだけを記録し、あなたのお部屋で行うなどプライバシーを守りますのでご安心下さい。



わからないことがあれば、いつでも聞いてください。

【連絡先】

氏名：山本 由子（やまもと ゆうこ）

所属：聖路加国際大学大学院 博士課程 3 年

住所：〒104-0045 東京都中央区築地 3-8-5

指導教員：亀井 智子（聖路加国際大学大学院 教授）

ご協力をお願い

誰でも子どもの頃や、昔のでき事を思い出し、話すことですっきりすることがあります。私はその研究をしています。

つきましては、お話をしなくとも普段のご様子を見させていただき、質問を読み上げてお聞きする調査へのご協力をお願いします。

お願いすること

おなじ質問を、2 週間を空けて計 2 回いたしますのでお答えください。

ご許可をいただいてから、研究者がお部屋に訪問いたします。そのために、あなたが準備をするようなことはなにもありません。

協力するかどうかはあなたが自由に決めることができます。また、いつでも断ることができます。それでご都合が悪くなるようなことは決してありません。

※ 昔の出来事を振り返る機会は平等にあります。ご希望によって、研究の終了後に、お話を聴く時間を持たせていただきます。



わからないことがあれば、いつでも聞いてください。

【連絡先】

氏名：山本 由子（やまもと ゆうこ）

所属：聖路加国際大学大学院 博士課程 3 年

住所：〒104-0045 東京都中央区築地 3-8-5

指導教員：亀井 智子（聖路加国際大学大学院 教授）

△△施設 スタッフの皆様

ご協力をお願い

このたび、私こと山本由子（聖路加国際大学博士課程在籍）は、認知症高齢者の方が昔を振り返ってお話をされるライフレビューの効果について調べております。この「特別養護老人ホームに入所する認知症高齢者へのライフレビューの効果の検証：ランダム化比較試験と混合研究法を用いて」を行うにあたり、皆様にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

高齢になると、子どもの頃の話や得意だったことを思い出し、生き方や思いを語ることで落ち着かれることがあります。これは、長期療養される認知症高齢者の日常生活の安定や、個別ケアにも役立つと考えられます。そこで、ライフレビューにより生活史を子どものころから順に尋ねる面談をして、効果をみるのが本研究のねらいです。

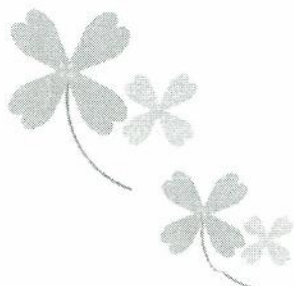
対象者となる方は、施設長様から候補を挙げていただき、お話を聴く方と、質問をさせていただきます方の方の計□名です。質問の方もご希望により後日、同様にお話をお聴きします。

お願いする内容は以下の三つです

- ・ライフレビューを行う日は、対象者の方のケアのご予定やご都合を担当の方にお尋ねすることがあります。なお、観察のため 20 分程度フロアにいます。
- ・セッション前後の様子を知るため記録を拝見し、不明な点をお聞きすることがあります。
- ・セッションの前と後の 2 回、観察項目の確認のために 5 分程度お時間をいただくこと、また 4 項目の質問紙調査に 5 分程度のお時間とお答えにご協力をお願いします。

本研究への協力は、ご本人（またはご家族、後見人）様の承諾を得てから行います。研究者と補助者の 2 名が、週 1 回 30 分程度で計 4 回、対象者の居室やフロア内のプライバシーを保てる場所で行います。また、研究を公表する際には施設や個人が特定されないようにいたします。

本研究につきましてご質問がありましたら、下記までお問い合わせください。ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



【連絡先】

氏名：山本 由子

所属：聖路加国際大学大学院 博士課程 3 年

住所：〒104-0045 東京都中央区築地 3-8-5

電話：080-1099-8109

アドレス：12DN011w6H-ts@slcn.ac.jp

指導教員：亀井智子（聖路加国際大学大学院 教授）

聖路加国際大学
学長 井部俊子殿

研究への参加・協力の同意書

私は「特別養護老人ホームに入所する認知症高齢者へのライフレビューの効果の検証：ランダム化比較試験と混合研究法を用いて」について説明を受け、内容を理解し、この研究に参加・協力することに同意します。

日付： 2014 年 月 日

研究対象者（署名）： _____

代理承諾者（署名）： _____

研究協力者と代理承諾者との関係：

説明者（署名）： _____

聖路加国際大学 研究倫理審査委員会承認番号：〇〇 - 〇〇〇

聖路加国際大学
学長 井部俊子殿

研究協力断り書

私は「特別養護老人ホームに入所する認知症高齢者へのライフレビューの効果の検証：ランダム化比較試験と混合研究法を用いて」についての研究協力を同意しましたが、協力を中止することにしましたので、通知します。

日付： 2014 年 月 日

(本人署名)

(代理人署名：続柄)

氏名_____

※お手数ですが、研究者または看護師、スタッフに直接お渡しくださるか、研究者宛に郵送でお送りください。

ライフレビュー観察記録票

ID: _____

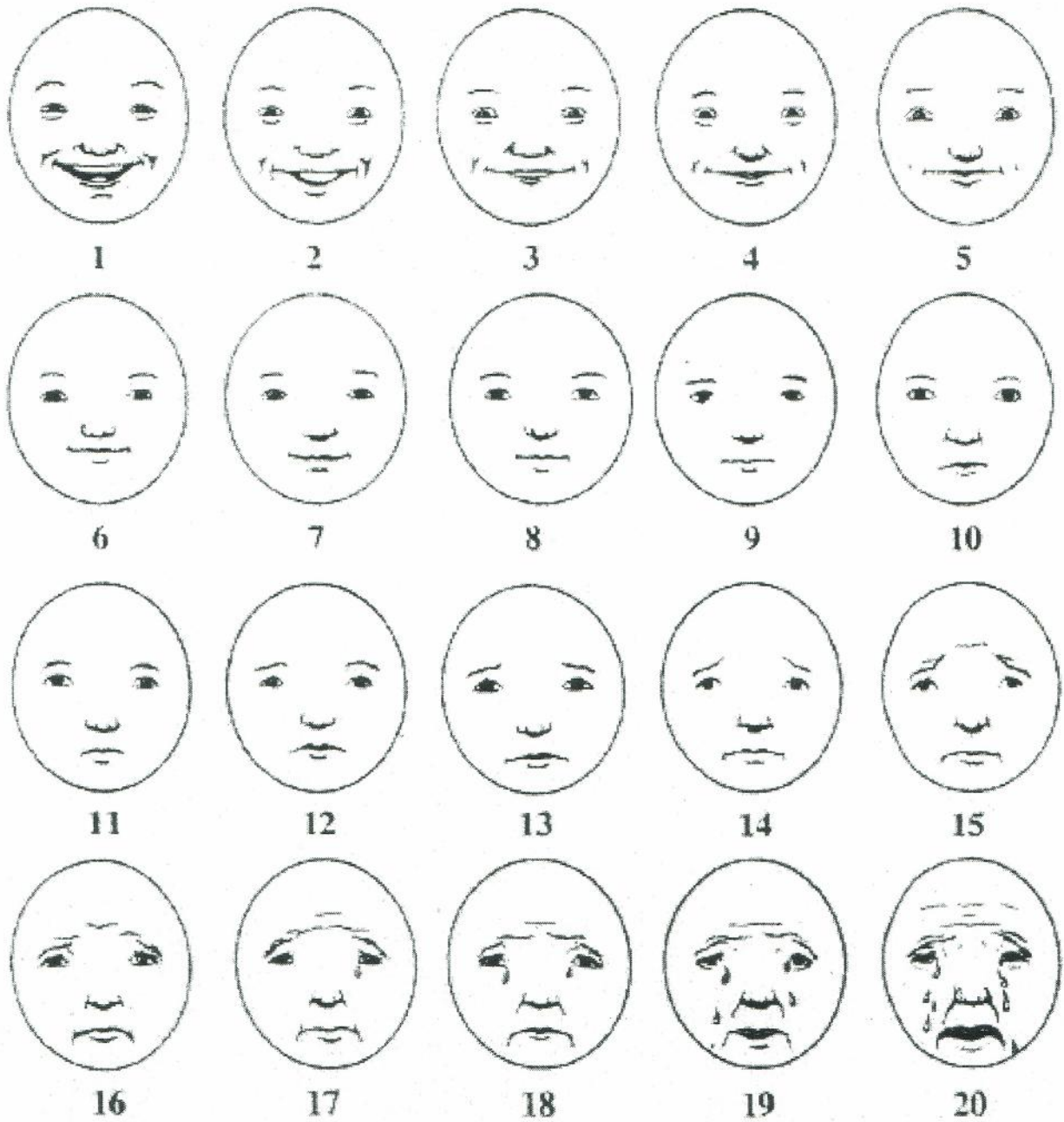
該当しない=0(チェックなし)、該当する=1(○印)

手がかり		写真など	①	②	③	④	
要 因	内 容						特記事項
非言語的コミュニケーション	a 動作や身振り(頷き、拍手など)による表現が見られる		1	1	1	1	
	b 相手に視線を送ってほほ笑む		1	1	1	1	
	c 表情を豊かに示す		1	1	1	1	
注意・関心	a 注意散漫でない		1	1	1	1	
	b 眠そうでない		1	1	1	1	
	c その場の話題や活動に興味や関心を示す		1	1	1	1	
感情	a 不安げな様子はない		1	1	1	1	
	b 抑うつ的でない		1	1	1	1	
	c いらいらしている様子はない		1	1	1	1	
	d 場面に即した感情表出がある		1	1	1	1	
	e 自然でくつろいだ感じ		1	1	1	1	
フェイス スケールの点数							
計							
メモ							

(東大式観察評価スケール参照、一部改編)

フェイス・スケール

*当てはまる番号を観察票に記載する



(Lorish C.D. & Richard M. , 1986)

個人背景記録票

資料13 個人背景記録票

記録日:

ID:

名前の呼び方

年齢、性別

歳	M	F
---	---	---

入所日

要介護認定

入浴曜日

生活自立度

・食事	・障害老人自立度
・排泄	・認知症判定
・更衣	
・移乗	

診断名

罹病歴・医療面の留意点

入所までの概要

認知機能検査

(日付)

MMSE
FAST
CDR

日常生活動作分類など

(日付)

Barthel Index
MOSES
GDS

家族構成

結婚歴

未婚	・	既婚	同居	別居	死別
----	---	----	----	----	----

家族・キーパーソン

--	--

源家族の姉妹・兄弟

人 :

家族に関する特記事項

出生地(故郷)

--

出生地・故郷に関する特記事項

--

出生地以外の特別な場所

--

特別な場所の理由

--

学歴

学校名

尋常小学校

中学校、女学校

高校

職業歴

--

特に好きなもの・事柄

--

特に嫌いなもの・事柄 ※避けたほうがよい話題

--

視力・聴力・言語

--

コミュニケーションの留意点

--

追加特記事項

--

ライフレビュー 全体プロトコル

ID _____

実施日 _____

＊セッションの流れ＊

1. はじめる前に

- ・開始時刻 20 分程前にはフロアに到着し、当日の担当スタッフにセッション時間を告げ、対象者の状態、および面会、外出予定などがないことを確認する。
- ・研究者と研究補助者でセッションのテーマ、用いる写真や資料、観察事項について留意点を確認し打ち合わせる。
- ・開始前に 5 分間程度、対象者の覚醒状況、表情、発語、活動の様子などを観察する。
- ・排泄のタイミングに問題がないか確認しておく。
- ・対象者の居室、面会室などで行う場合、対象者の約 90 度の位置に座り、顔の高さが同じで目線が合わせやすく、片腕の長さまでの距離をとれるよう椅子の配置を工夫する。研究補助者は、対象者の全体がよく見える少し離れた位置に場所をとる。

2. ライフレビューの実施

1) 対象者に挨拶を行う。

- ・「〇〇と申します。今日は（対象者の呼び方）さんにお話を聞きにまいりました」など毎回研究者らの名前と、研究の目的を伝える。
- ・耳が遠い、視力が弱いなどの特性に配慮する。低音で、ゆっくり、はっきりと伝える。
- ・研究者は手に各プロトコルと筆記用具を持ち、適宜メモを取る。そばにお茶とコップを用意しておく。時計で時間を確認しながらセッションを進行する。
- ・研究補助者は記録用紙、観察用紙を持ち、原則として会話に参加しない。話に対し、相づちや共感する態度などは構わない。観察と記録、およびセッションの環境に配慮する。

2) 天候や季節、対象者の様子などを一言入れ、すぐに話題に入る。

- ・「暖かくなりましたね。今日は（対象者の呼び方）さんの△△の頃のお話をうかがいたいと思います。この写真で（対象者の呼び方）さんは写っていらっしゃいますか？」など。
- ・語られる話を傾聴する。まとまりにくいようであれば、いつごろか、場所はどこか、何をしているところか、誰と一緒に、どのような気持ちだったか、などを適宜加えながら、対象者の振り返りを促していく。ただし全てに正確に答えてもらう必要はない。
- ・対象者からすぐに返答がなくとも、思い出している様子があれば一緒に考えるよう時間を取り、写真からくみ取れる当時の様子を尋ねていく。
- ・言葉が出ないようであれば、「それは◇◇のようなことですか？」などと補ったり、発言があっても思い通りの言葉でまとまらない様子や、困っている様子があれば「それは◇◇ということですね」などとまとめる。
- ・研究者は「のどが渇きませんか、お茶をどうぞ」など、途中で飲水を促す。

3) 写真が少ない、または無い場合

- ・あらかじめ得られた情報から、セッションのテーマに沿った内容の資料を用意して用いる。（例：情報通信機器を用いた故郷の写真、建物、学校、祭りなどの画像。また最寄りの図書で手に入る古地図など）

- ・対象者が当時使用していた物や道具、作った品（服など）などが家族から得られればそれを用いる。
- ・対象者に立ち上がってもらうなど、身体を動かすアクティビティ等を行わない。話の途中で対象者が自らジェスチャーを示す、歌を歌うなどの動作は引き止めない。

3) 振り返った内容からトピックを記す。

- ・対象者の発言や反応が最も多かった写真や話題は、後日も振り返れるよう記録する。
- ・セッションのテーマに沿った時代の振り返りがあれば、準備した写真や資料すべてについて尋ねたり、それぞれ正確さや細かさを尋ねることはしない。
- ・写真の枚数が多い場合は「どのお写真がいちばん懐かしいですか？」など選んでもらう。
- ・「この〇枚をいつでも見られるようにしておきましょう」など、対象者が語った言葉を数行加え、テーマ毎に見開き(2 ページ)程度のメモリーブック作製に用いる。
- ・セッションのテーマに沿った時代の振り返りがあれば、提供された写真すべてについて尋ねたり、正確さや細かさを尋ねることはしない。

3. クロージング

- ・予定時刻になる前に、「今日は（対象者の姓など）さんの（テーマ）時代」のころのお話を聞いて勉強になりました」（「楽しくお聞きしました」「感動しました」など）、「お疲れになりませんか？そろそろ休憩にしましょうか」などと終了につなげる。
- ・セッション時間は厳守し、延長しないよう留意する。但し時間を短縮することはできる。
- ・次回の日時とテーマを伝える。日時はカードに記入してカレンダー等に貼付する。
- ・「今日はどうもありがとうございました。またお話しする日を楽しみにしております」など感謝の気持ちを伝える。
- ・終了したことを担当スタッフに伝える。しばらくステーションに待機して変わらないことを確認し退室する。この間、研究者と研究補助者はセッションを振り返る。

注意事項

1. 対象者に対して

- ・高齢者は『目上の人』であることを踏まえ、研究者と研究補助者は、服装や化粧がだらしないよう、また堅苦しくないように整える。
- ・万一、時間に遅れるような場合は、必ず施設の担当者に電話連絡を入れ、対象者へ遅れる旨を伝えてもらう。
- ・セッション中に不測の事態が生じた場合は、直ちにセッションを中止して対象者の安全を確保し、以後はあらかじめ打ち合わせた施設の災害時マニュアルに沿って行動する。

2. 個人情報に関して

- ・記録類、メモ帳類には施設名、対象者の名前、住所など場所や個人が特定できる情報は記載しない。アルファベット一文字、および数字を用いて代用する。
- ・セッションで知り得た個人情報は施設内であっても本人の許可なく第三者に伝えない。
- ・施設の記録の閲覧はその都度申し出てステーション内で行い、コピー等はしない。

ライフレビュー 第1回目記録票

ID _____

实施日

第1回 幼児期

テーマの概要（幼いころの思い出、家、家族、故郷、どんな子どもだったか）	
目標：	
環境調整	プロセス
<input type="checkbox"/> 椅子の配置（記入） <input type="checkbox"/> 照明、音、室温は適切か <input type="checkbox"/> お茶の用意 <input type="checkbox"/> プライバシーの保持	a. セッションの導入 ・挨拶、研究者の自己紹介をする。 ・本日のテーマを伝える。 b. 写真の提示 ・相槌や問いで想起を促しながら傾聴する。 c. 質問例を加え、共に幼少時代を振り返る。 d. 本日のまとめ ・話題を簡単にまとめる。 ・次回のテーマと日時を伝え、メモを貼る。
構造的ライフレビューの質問例	
※この時代には、関東大震災(1923)、満州事変(1931)が起こった。両親、祖父母、親戚らと同居が通常であった。 ・ご両親はどんな方でしたか？ おとうさんは？おかあさんは？ ・きょうだいはいましたか？ どのようなきょうだいでしたか？ ・家族の中でどなたがあなたと似ていましたか？ どんなところが似ていましたか？ ◎お生まれ（故郷）はどちらですか？ どんな遊びをしましたか？	
メモ	
<人物、出来事、その時どう思ったか、今振り返ってどう思うか、など> ・写真（ ）（ ）	
<メモリーブックへのコメント>	

ライフレビュー 第2回目記録票

ID _____

実施日 _____

第2回 青春期

テーマの概要（学校生活、楽しみ、友だち、尊敬する人、やりたかったこと）

目標：

環境調整

プロセス

☐ 椅子の配置（記入）

c. セッションの導入

- ・挨拶、研究者の自己紹介をする。
- ・本日のテーマを伝える。

d. 写真の提示

- ・相槌や問いで想起を促しながら傾聴する。

c. 質問例を加え、共に青春時代を振り返る。

☐ 照明、音、室温は適切か

d. 本日のまとめ

☐ お茶の用意

- ・話題を簡単にまとめる。

☐ プライバシーの保持

- ・次回のテーマと日時を伝え、メモを貼る。

構造的ライフレビューの質問例

※この時代には、日中戦争(1937)、太平洋戦争(1941-1945)、疎開を経験した方々がほとんどであった。

- ・学校にはいらっしゃいましたか？ 学校にはどんな意味がありましたか？
得意なものは何でしたか？ ご自分にとってどのような目的がありましたか？
- ・仲の良かった友だちはいらっしゃいましたか？ 尊敬する人はいらっしゃいましたか？
- ・どんな人になりたいと思われましたか？
- ・ぜんぶ合わせて考えてみて、10代のころは幸せでしたか？

メモ

<人物、出来事、その時どう思ったか、今振り返ってどう思うか、など>

- ・写真（ ）（ ）

<メモリーブックへのコメント>

第3回 成人期

ライフレビュー 第4回目記録票

ID _____

実施日 _____

第4回 中年期～まとめ

テーマの概要（家族、家庭での役割、子ども、どのように日々を送ってきたか）

目標：

環境調整

プロセス

☐ 椅子の配置（記入）

g. セッションの導入

- ・挨拶、研究者の自己紹介をする。
- ・本日のテーマを伝える。

h. 写真の提示

- ・相槌や問いで想起を促しながら傾聴する。

c. 質問例を加え、共に中年期を振り返る。

☐ 照明、音、室温は適切か

d. まとめ

☐ お茶の用意

- ・話題を肯定的にまとめる。

☐ プライバシーの保持

- ・ねぎらいと感謝の言葉で締めくくる。

構造的ライフレビューの質問例

※中年期以降の出来事は想起しにくいことをふまえる。対象者が最も生き生きと語る内容を繰り返してもよい。これまで3回の範囲で想起された出来事や思いを再度振り返りまとめていく。

- ・ご家庭を守るうえで大変な出来事がありましたか？
- ・お子さんのことをお聞きしてもよろしいですか？何人ですか？
- ・今までの暮らしで、もっとも大事にされていたのは何でしょうか？
- ・総じてどんな人生を送っていらっしゃったと思いますか？

メモ

<人物、出来事、その時どう思ったか、今振り返ってどう思うか、など>

- ・写真（ ）（ ）

<メモリーブックへのコメント>

被調査者 / 番号

年齢 歳 性別 (男 ・ 女)

GDS15

以下の質問に対し「はい」、「いいえ」のどちらかに○をつけて下さい。

- | | | |
|-----------------------------------|----|-----|
| 1) 毎日の生活に満足していますか。 | はい | いいえ |
| 2) 毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか。 | はい | いいえ |
| 3) 生活が空虚だと思いますか。 | はい | いいえ |
| 4) 毎日が退屈だと思ふことが多いですか。 | はい | いいえ |
| 5) たいていは機嫌よく過ごすことが多いですか。 | はい | いいえ |
| 6) 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか。 | はい | いいえ |
| 7) 多くの場合は自分が幸福だと思いますか。 | はい | いいえ |
| 8) 自分が無力だなあ、と思ふことが多いですか。 | はい | いいえ |
| 9) 外出したり何か新しいことをするより家にいたいと思いますか。 | はい | いいえ |
| 10) 何よりもまず、物忘れが気になりますか。 | はい | いいえ |
| 11) いま生きていることが素晴らしいと思いますか。 | はい | いいえ |
| 12) 生きていても仕方がないと思ふ気持ちになることがありますか。 | はい | いいえ |
| 13) 自分が活気にあふれていると思いますか。 | はい | いいえ |
| 14) 希望がないと思ふことがありますか。 | はい | いいえ |
| 15) 周りの人があなたより幸せそうに見えますか。 | はい | いいえ |

GDS15

点

Vitality Index
意欲の指標

資料 20 Vitality Index

設問 (点数)	質問内容	回答	得点
1 (2点)	起床 (Wake up) <ul style="list-style-type: none"> ● いつも定時に起床している ● 起こさないと起床しないことがある ● 自分から起床することがない 	2 1 0	
2 (2点)	意志疎通 (communication) <ul style="list-style-type: none"> ● 自分から挨拶する、話しかける ● 挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔がみられる ● 反応がない 	2 1 0	
3 (2点)	食事 (feeding) <ul style="list-style-type: none"> ● 自分で進んで食べようとする ● 促されると食べようとする ● 食事に関心がない、全く食べようとしない 	2 1 0	
4 (2点)	排泄 (On and Off Toilet) <ul style="list-style-type: none"> ● いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う ● 時々尿意、便意を伝える ● 排泄に全く関心がない 	2 1 0	
5 (2点)	リハビリ、活動 (Rehabilitation, Activity) <ul style="list-style-type: none"> ● 自らリハビリに向かう、活動を求める ● 促されて向かう ● 拒否、無関心 	2 1 0	
合計得点			/ 10

除外規定

意識障害、高度の臓器障害、急性疾患（肺炎など発熱）がある場合

判定上の注意

1. 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2点
2. 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい
3. 器質的消化器疾患を除外。麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2点（口まで運んでやった場合も積極的に食べようとすれば2点）
4. 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2点
5. リハビリでなくとも散歩やリクエーション、テレビでもいい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する

Toba K et al: Geriatrics and Gerontology Intern 2:23-29, 2002

鳥羽研二監修, 高齢者総合的機能評価ガイドライン, 厚生科学研究所 2003

日本老年医学会編集/発行, 健康長寿診療ハンドブック, 2011

杏林大学医学部高齢医学 <http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/medicine/geriatrics/>



名 ()	記録者 ()
入居者ID ()	記入日 (/ /)

ここ1週間のご入居者のご気分についてお尋ねします

資料 21 MOSES

17. 暗かったり、沈み込んだり、悲しそうな表情は見られますか
 - 1) 全く見られない
 - 2) ほとんど見られない
 - 3) 時々見られる
 - 4) しばしば見られる
18. ご入居者から悲しいとか落ち込んでいるという言葉は聞かれますか
 - 1) 全く聞かれない
 - 2) ほとんど聞かれない
 - 3) 時々聞かれる
 - 4) しばしば聞かれる
19. ご入居者の声の調子が悲しそうだったり、うつであるように感じられますか
 - 1) 全く感じられない
 - 2) ほとんど感じられない
 - 3) 時々感じられる
 - 4) しばしば感じられる
20. 悩んでいたたり、不安そうなお様子はありますか
 - 1) 全くない
 - 2) ほとんどない
 - 3) 時々ある
 - 4) しばしばある
21. ご入居者から悩みや不安について言われることがありますか
 - 1) 全くない
 - 2) ほとんどない
 - 3) 時々ある
 - 4) しばしばある
22. ご入居者が声をあげて泣くことがありますか
 - 1) 全くない
 - 2) ほとんどない
 - 3) 時々ある
 - 4) しばしばある
23. ご入居者をご自分の将来について悲観的なことを言うことがありますか
 - 1) 全くない
 - 2) ほとんどない
 - 3) 時々ある
 - 4) しばしばある
24. ご入居者の気が動転して周囲に目が向けられないことがありますか
 - 1) 全くない
 - 2) ほとんどない
 - 3) 時々ある
 - 4) しばしばある

ここ 1 週間のご入居者の姿勢や態度についてお尋ねします

25. スタッフの方からのお世話に対する受け入れはいかがですか

- 1)積極的に受け入れる、できることは自分でしようとする
- 2)受け身的だが、言われたとおりに受け入れる
- 3)多少嫌がるが、言われたとおりに受け入れる
- 4)ほとんど抵抗し、なかなか受け入れない

26. スタッフの方からの意見や勧めに対する受け入れはいかがですか

- 1)特に問題なく従う
- 2)多少機嫌は悪くなるが従う
- 3)相当抵抗してから従う
- 4)ほとんど力づくでしなければ従わない

27. ご入居者がいらいらしている感じはありますか

- 1)全くない
- 2)ほとんどない
- 3)時々ある
- 4)しばしばある

28. ご入居者がかんしゃくを起こしている様子がありますか

- 1)全くない
- 2)ほとんどない
- 3)時々ある
- 4)しばしばある

29. スタッフの方に対して怒鳴ったり乱暴な言葉を吐くことはありますか

- 1)全くない
- 2)ほとんどない
- 3)時々ある
- 4)しばしばある

30. スタッフ以外の方に対して怒鳴ったり乱暴な言葉を吐くことはありますか

- 1)全くない
- 2)ほとんどない
- 3)時々ある
- 4)しばしばある

31. 暴力を振ることがありますか（例：たたいたり、押したりするなども含む）

- 1)全くない
- 2)きっかけがあったときに1度あった程度
- 3)はっきりとしたきっかけがなく1度あった程度
- 4)はっきりとしたきっかけもなく2度以上

32. けんかを売ったりすることがありますか

- 1)全くない
- 2)ほとんどない
- 3)時々ある
- 4)しばしばある

ここ1週間のご入居者のご様子についてお尋ねします

33. 1人でいることを好んでいる感じはありますか
- 1) 1人でいたい感じはなく、機会があれば周囲の方とご一緒に過ごしている
 - 2) 1人でいても、どなたかと一緒でも特に変わりなく過ごしている
 - 3) 少なくとも時々1人で引きこもっているときがある
 - 4) ほとんど1人で引きこもっている
34. ご入居者から周囲の方へ話しかけたり、笑いかけるなどの接触はありますか
- 1) しばしばどなたに対してもある
 - 2) しばしば決まった方に対してある
 - 3) 時々ある
 - 4) 全くない
35. 周囲の方からの話しかけに対するご入居者の反応はいかがですか
- 1) ほとんどの場合、よく反応する
 - 2) ほとんどの場合、少しだけ反応する
 - 3) あまり反応しないことが多い
 - 4) 全く反応しない
36. 周囲の方との交流や親しさはいかがですか
- 1) 2人以上の方と交流がある
 - 2) 1人の方と交流がある
 - 3) 1人以上の方と軽い交流がある
 - 4) どなたとも交流がない
37. 身近な日常の出来事に関する興味はどの程度ありますか
- 1) よくある
 - 2) 時々ある
 - 3) まれにある
 - 4) 全くない
38. 社会的な出来事に関する興味はどの程度ありますか
- 1) 毎日のようにある
 - 2) 時々ある
 - 3) まれにある
 - 4) 全くない
39. ご入居者が好きなことをすすんではいることはありますか（例：散歩やテレビなど）
- 1) しばしばある
 - 2) 時々ある
 - 3) まれにある
 - 4) 全くない
40. ご入居者が周囲の方を助けたり手伝ったりすることはありますか
- 1) しばしばある
 - 2) 時々ある
 - 3) まれにある
 - 4) 全くない

スタッフの方へ

アンケートのお願い

「特別養護老人ホームに入所する神経認知障害高齢者へのライフレビューの効果:ミックス法を用いて」にご協力いただき、誠にありがとうございます。利用者様へのライフレビュー、また、メモリーブック(思い出帳)を掲示したことで、お気づきの点を聞かせてください。

以下の4項目について、a)～c)は該当するところに○を、d)へはご記入をお願いします。

お尋ねします

a) ライフレビューの情報は、あなたが利用者様を理解するのに役立ちましたか？

1. まったく役立っていない。
2. あまり役立っていない。
3. 少し役立った。
4. とても役立った。

b) 普段の利用者様の生活行動(食事、睡眠、会話など)は変化がありましたか？

1. まったく変わらない。
2. あまり変わらない。
3. 少し変わった。
4. とても変わった。

c) メモリーブック(思い出帳)は役立っていますか？

1. まったく役立っていない。
2. あまり役立っていない。
3. 少し役立った。
4. とても役立った。

d) 認知症高齢者の方へのライフレビューでお話を聴くこと、またメモリーブックを使うことでお気づきの点などがあればご自由にご記入ください。

質問は以上で終わりです。ご協力に心から感謝申し上げます。